

鹿児島大学の地域防災活動

Disaster prevention activities by Kagoshima University

令和7年4月



鹿児島大学
地域防災教育研究センター

CONTENTS

大学の防災の知を地域へ

鹿児島大学各教員の防災活動

◎キーワード検索01

◎酒匂 一成.....04	◎寺本 行芳.....05
◎佐藤 宏之.....06	◎齋田 倫範.....07
◎田松 裕一.....08	◎松成 裕子.....09
◎松田 史代.....10	◎日隈 利香.....11
◎川端 訓代.....12	◎福満 博隆.....13
◎黒光 貴峰.....14	◎木村 至伸.....15
◎平 瑞樹.....16	◎柳田 信彦.....17
◎井村 隆介.....18	◎中村 啓彦.....19
◎柿沼 太郎.....20	

鹿大防災セミナー

◎令和6年度の鹿大防災セミナー.....21

◎鹿大防災セミナー開催実績.....22

鹿大の防災シンポジウム

◎令和6年度レジリエント社会・地域共創シンポジウム...25

◎防災シンポジウム開催実績.....26



キーワード検索

(五十音順)

【い】

意識調査.....	14
医療従事者人材育成.....	17
インフラ.....	04

【お】

温泉.....	12
---------	----

【か】

海岸砂防.....	05
海洋環境.....	19
火山.....	05
火山災害.....	18
河川防災.....	07

【き】

気候変動.....	19
気象災害.....	19
キャンプ.....	13
気象に起因する波動・流動.....	20
教材開発.....	14

【く】

グリーンインフラ.....	16
---------------	----

【け】

健康づくり支援.....	13
原子力災害.....	09

【こ】

口腔ケア.....	08
-----------	----

【さ】

災害医療.....	08
災害史研究.....	06
災害時対応教育.....	11
災害対策.....	07・11
再発予防.....	17
桜島火山災害.....	09
砂防.....	05

【し】

社会基盤	15
歯科的身元確認	08
自然災害科学	18
自然史	18
身体障がい	10
障がい児者	11
地震	12
地震災害	15・18
地盤災害	04
地盤の震動特性	15
住環境整備	10
常時微動観測	15

【せ】

精神科リハビリテーション	17
精神障害作業療法	17

【た】

退院支援	17
対策・復旧	04
耐震性能評価	15
高潮	20
断層	12

【ち】

地域在宅看護学	11
地域防災	05・07
地殻流体	12
地球温暖化	19
治山	05

【つ】

津波	20
津波災害	18
梅雨	19

【と】

島嶼の統計的性質	20
透水性海浜の浸透流	20
土砂災害	05・18

【の】	
農業用施設災害	16
農地災害	16
【ひ】	
避難所運営ゲーム	09
【ふ】	
福祉用具	10
文化財防災	04
【ほ】	
法歯学	08
放射線看護学	09
防災意識	13
防災科学教育	18
防災教育	06・14
防災計画	04
防災GIS	16
【み】	
水の波	20
【ゆ】	
UAV（ドローン）	16
【ら】	
ラドンガス	12
【り】	
理学療法	10
リスクコミュニケーション	09
リハビリテーション	10
流体と構造物の相互干渉	20
緑化	05
【れ】	
歴史資料保全	06
レクリエーション活動	13

さこう かずなり
酒匂 一成 (理工学域工学系・教授)

専門分野 地盤工学、地盤防災
所属学会 土木学会、地盤工学会、砂防学会
外部委員 国土交通省九州地方整備局緊急災害対策派遣ドクター、鹿児島県土砂災害対策アドバイザー、鹿児島市防災専門アドバイザー、国土交通省九州地方整備局総合評価技術委員会、国土交通省九州地方整備局九州河川技術懇談会、鹿児島県道路トンネル検討会、人吉市指定文化財等保存活用専門会議など



貢献可能な活動

●土砂災害の対策・復旧

国土交通省九州地方整備局、鹿児島県、鹿児島県内の自治体（薩摩川内市、垂水市、さつま町、長島町、宇検村など）が管理する道路路面の被災箇所について、被災メカニズムおよび復旧対策工法等に関する助言を行いました。

●社会基盤整備

北薩トンネルの復旧工事、鹿児島東西道路シールドトンネル工事などについて、地盤工学的観点から現地調査および助言を行いました。

●文化財保全(地盤工学観点から)

人吉城跡での地盤災害や石垣工事などの文化財保存活用に関して、地盤工学的観点から現地調査および助言を行いました。



●土砂災害・地盤工学に関する講演

「豪雨・地震による土砂災害から身を守る」、「豪雨時の土砂災害に対する減災・防災技術開発」、「シラス地盤における土砂災害と宅地防災」など、土砂災害・地盤工学に関連する講演を、技術者、市民、高校生向けに行っています。

活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
シンポジウム	土木学会会員	オンライン	第12回土砂災害に関するシンポジウムの実行委員長を務めた。
招待講演等	一般市民など	稲盛会館	鹿児島地方気象台主催の令和6年県民防災講演会で大規模噴火に備えた調査研究をテーマに講演を行った。
指導・助言等	土木技術者	研究室	新擁壁工法開発に関する実験や設計計算、地震時の斜面对策技術の提案に関する助言を行った。
報道	一般市民など	肝付町	NHK鹿児島放送局とMBCが開催する鹿児島防災シンポジウムにパネリストとして参加した。
委員会等	行政担当者等	鹿児島国道事務所	鹿児島東西道路シールドトンネル工事に関する専門的、技術的アドバイスをした。

キーワード

地盤災害、対策・復旧、インフラ、文化財防災、防災計画

てらもと ゆきよし
寺本 行芳（農水産獣医学域農学系・教授）

専門分野 砂防学、森林防災学
 所属学会 砂防学会、日本緑化工学会、日本海岸林学会など
 外部委員 鹿児島県土砂災害対策アドバイザー、鹿児島市防災専門アドバイザー委員、
 屋久島世界自然遺産地域高層湿原保全対策検討会委員、
 熊本県公共事業再評価監視委員会委員



貢献可能な活動

●土砂災害発生の仕組みの解明と防災対策

鹿児島県は全国的に土砂災害が多い地域です。この背景として、県土が脆い火山噴出物由来の地質で構成されていることや、豪雨が多いことが挙げられます。土砂災害の原因となる侵食・崩壊・土石流の発生の仕組みや、土砂災害の特性を踏まえた防災対策等について検討を行っています。また、近い将来に予想される桜島の大噴火による複合災害発生の仕組みの解明と影響評価、防災対策等についても検討しています。

●森林の防災機能と管理

日本の国土の約70%は、森林によって覆われています。森林は、地表面の侵食防止や斜面崩壊の防止等の防災機能を有しています。森林の持っている防災機能は、森林伐採や再造林が行われたかどうか、森林の成長段階、森林管理が実施されてきたかどうか等によって変化します。国土保全や山地災害防止に資するため、森林の防災機能の評価や災害に強い森林整備の方法を検討しています。

●海岸林の防災機能と管理

海岸林はこれまで、飛砂の侵入を防いだり、津波の勢いを弱めたりする機能等を発揮してきました。今後発生する大きな津波に対しても、防災機能を発揮することが期待されています。しかしながら、近年、手入れ不足等による海岸林の防災機能の低下が危惧されています。海岸林の防災機能の評価や防災機能を向上させるための森林管理について検討しています。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
招待講演等	町内会長、役員、自主防災組織会長・役員、市民	鴨池公民館、郡山公民館、田上公民館、谷山サザンホール、伊敷公民館、松元支所、城西公民館、吉田公民館	鹿児島市地区別防災研修会において、「風水害に備える～地域で取り組む防災活動のヒント～」のタイトルで講演した。
特別講演、現地研修会講師	防災担当技術者、県・市町防災担当者	末吉総合センター、日置市伊集院町健康づくり複合施設「ゆすいん」	令和5年度山地防災ヘルパー現地研修会において、「山地災害発生の仕組みと防災対策」のタイトルで特別講演と、治山施設現場における防災に関わる注意点や助言を行った。
取材対応	記者	郡山公民館	梅雨期の防災に関する注意事項についてコメントした。
取材対応	記者	郡山公民館	梅雨期の防災・減災に関して、地域住民が日頃から備えるべきことや注意すべきことについてコメントした。
委員会	県担当者	熊本県庁	熊本県公共事業再評価監視委員会委員として、治山・林道・砂防事業などに関する助言や再評価を行った。

キーワード

地域防災、土砂災害、砂防、治山、火山、緑化、海岸砂防

さとう ひろゆき
佐藤 宏之 (法文教育学域教育学系・准教授)

専門分野 歴史学(近世日本史)
所属学会 歴史学研究会、歴史科学協議会、日本史研究会、地方史研究協議会など
外部委員 鹿児島歴史資料防災ネットワーク事務局、鹿児島県文化財保護審議会委員、
鹿児島県歴史・美術センター黎明館史料編さん委員会委員、鹿児島県史料
集刊行委員会委員など



貢献可能な活動

●地域に残る歴史資料を、自然環境の変化や歴史環境の変化による消失・消滅の危機から保全する活動

阪神淡路大震災(1995年)を契機に、歴史資料の所在調査と保全活動を行うネットワーク組織が全国各地に発足しました。巨大地震・津波や集中豪雨、台風などの大規模自然災害が発生すると、その被災地では、瓦礫の中から個人や地域にまつわる記録や記憶を伝える資料が丁寧に拾い上げられるなど、個人や地域の歴史資料を守ることの意義が見直されています。歴史資料は、社会構造の大変動による人口減少や大規模災害などにより危機に瀕している地域存続の基盤であり、地域のアイデンティティとして重要です。しかし、地域に残る歴史資料のすべてをまるごと保全したからといって歴史文化が未来に継承されるわけではありません。人びとの日々の生活において有益なものとして活用できて初めて継承したといえるでしょう。地域の歴史資料を消失・消滅の危機から保全するということは、未来の歴史研究や地域社会のために「未来の歴史資料を保全する」ことにつながります。

●過去の歴史災害とその社会的応答(災害対応、復興など)に関する研究

過去に、どこで、どのような災害があったのか、そこからどのように復興してきたのか。過去に生きた人びとは、こうした災害に対して、ただ手をこまねいて運命を享受していただけではありません。人びとは危機に直面して、あるいは危機を予見して、さまざまな短期的あるいは長期的な対策を試みており、社会全体が災害に対応した、あるいは災害からの回復力を組み込んだものであったといえます。こうした社会の姿を被災前からの課題を知り、被災直後・被災地だけではなく時間と空間の広がりの中においてとらえることで、災害を単に恐れるだけではなく、それを科学的に見る目を養い、そこから得た知識や情報を自分の生活に活かし、防災(被害をなくす)・減災(被害を軽減する)・縮災(被害から早く抜け出す)に役立てるような対応力や行動力を育成します。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
歴史資料保全	市民	始良市・出水市・いちき串木野市ほか	①歴史資料の所在悉皆調査、②災害時における協力体制の確立、③デジタルカメラによる歴史資料の撮影と保全活動を行った。
歴史資料保全	市民	『地域歴史文化継承ガイドブック』	「鹿児島歴史資料防災ネットワーク」(http://kagoshima-shiryounet.seesaa.net/)の「設立の経緯」、「活動の特徴」を紹介した。
災害史研究	市民	著書・論文	地域に残る歴史資料を用いて、気候変動と地域社会の対応について、『自然災害と共に生きる』、「近世種子島の気候変動と地域社会」、「蒲生御飯屋日帳・廻文留にみる気候変動と地域社会」にまとめた。
防災教育	市民	出水市・霧島市	大規模自然災害の発生を想定した文化財レスキューのための災害図上訓練ワークショップやWeb会議システムとオンラインホワイトボードを活用して大規模自然災害時を想定した文化財保全オンラインシミュレーションを実施した。
防災教育	小学生	南種子町	地域にある防災資源を、写真と地図を手がかりに、子どもたち自身が探し当て、「なぜそれが地域防災にとって重要なのか」を考える「防災ナビゲーションワーク」を実施した。

キーワード

歴史資料保全、災害史研究、防災教育

さいた ものり
齋田 倫範（理工学域工学系・准教授）

専門分野 環境水理学、海岸工学
所属学会 土木学会、国際水理学会、砂防学会、日本海洋学会
外部委員 肝属川学識者懇談会委員、川内川学識者懇談会委員、九州河川技術懇談会委員、鹿児島県河川整備計画検討委員会 など



貢献可能な活動

●豪雨災害発生時の災害状況調査

最近では、令和2年7月九州豪雨災害に伴う県内二級河川の被災状況調査、および県内で発生した内水氾濫に関する調査を実施しました。また、同豪雨災害に関連し、球磨川流域における調査にも参画し、現在は、九州大学、佐賀大学、福岡大学と球磨川流域の防災力の向上に関する共同研究に取り組んでいます。

●河川災害・災害対策に関連する出前講義など

一般向けの講義（主に高校生や小・中学校、高等学校教諭を対象）として、「豪雨災害とその防除～河川氾濫を中心として～」、「地域防災の最前線～河川災害編～」などを実施しました。また、第32回鹿大防災セミナーにおいて『近年の豪雨に伴ういくつかの事象と関連する研究の取り組みについて』の題目で話題提供しました。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
委員会等	行政担当者	国土交通省大隅河川国道事務所	肝属川水系の河川整備計画、河川改修事業、ならびに既存の治水施設の有効利用等に関する助言を行った。
委員会等	行政担当者	国土交通省川内川河川事務所	川内川水系河川整備計画、川内川直轄河川改修事業、ならびに川内川総合水系環境整備事業等に関する助言を行った。
委員会等	行政担当者	鹿児島県	鹿児島県内の二級河川の河川整備計画等に関する助言を行った。
講演	鹿児島県、鹿児島市、一般の方、ほか	鹿児島大学等オンライン	鹿大防災セミナーや防災・日本再生シンポジウムにおいて、近年の豪雨災害や河川防災に関するテーマで講演した。
取材対応	記者	鹿児島大学	平成29年7月九州北部豪雨や8・6水害を受けてどのような準備が今後必要となるか？、想定を超える豪雨災害にどう備えるべきか？などについて説明した。また、東シナ海沿岸で発生する副振動災害に対する防災研究について紹介した。

キーワード

地域防災、河川防災、災害対策

たまつ ゆういち
田松 裕一（医歯学域歯学系・教授）

専門分野 解剖学、法歯学
所属学会 日本解剖学会、歯科基礎医学会、日本法歯科医学会
外部委員 警察歯科医、海上保安歯科医



貢献可能な活動

● 歯科的身元確認

鹿児島県歯科医師会、鹿児島県警察、第十管区海上保安本部等の関係機関と連携して身元の不明なご遺体に対して歯科所見による個人識別をおこないます。大規模災害時には歯学部としても被災地の身元確認業務に協力します。また、平時にはセミナーや出前授業を通して、「歯科的身元確認とはどういうものか」などの情報提供や「歯科医院で歯の記録を残しておくことが万が一の時に自分の個人識別に役立つ」ことなどの啓発に関するお話をすることもできます。

● 避難所等における口腔ケア（運営委員の立場から歯学部・大学病院歯科診療科の活動を紹介するものであり、田松個人の活動ではありません。）

避難所で過ごす被災者の口腔清掃状態の悪化は、特に高齢者では誤嚥性肺炎のリスクを高め命にかかわります。大規模災害時には鹿児島県歯科医師会、鹿児島大学病院、鹿児島大学歯学部の災害協定に基づき、避難所等での口腔ケア（歯の治療、入れ歯の修理、口腔清掃指導など）をおこないます。平時には、「オーラルフレイル（口腔機能低下症）や災害時に注意すべきお口の健康」などの情報提供や啓発セミナーをおこなうことができます。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
シンポジウム	住民	鹿児島県歯科医師会館	地域住民を対象に「防災シンポジウムー歯科から発信する地域防災と災害対策準備ー」を開催し、大学、歯科医師会、関係機関の防災・災害担当者による歯学部との協力関係や災害時の活動を紹介し、歯学部の防災分野での役割について社会的理解を深めていただくことを企画した。
講演	医師、歯科医師、警察官、海上保安官	鹿児島県医師会館	災害時に連携する関係機関の職員を対象に「第9回死体検案・身元確認業務等研修会」にて「歯学部での法歯学教育と戦没者遺骨収集事業への参加経験」について講演を行った。
指導・助言等	警察鑑識課担当者	鹿大医学部法医学解剖室	死因究明をおこなう法医学分野・林教授と協力し、警察から要請を受けた際に歯科所見による個人識別に協力した。
指導・助言等	教諭、養護教諭、栄養教諭	郡元キャンパス	教員免許更新時講習の受講者を対象に「地域防災の最前線」の中で「医療災害」を担当した。

キーワード

災害医療、法歯学、歯科的身元確認、口腔ケア

まつなり ゆうこ
松成 裕子（医歯学域医学系・教授）

専門分野 放射線看護学、災害看護学
所属学会 日本放射線看護学会理事、日本災害看護学会評議員、日本看護研究学会九州・沖縄地方会役員、他
外部委員 九州・沖縄高度実践看護師活動促進協議会理事、鹿児島県原子力安全・避難計画等防災専門委員、鹿児島県原子力災害医療ネットワーク検討委員、鹿児島市防災専門アドバイザー委員、他



貢献可能な活動

●原子力災害におけるリスクコミュニケーションの促進事業

環境省の「放射線に係る健康影響への不安を抱える住民等に対するリスクコミュニケーション」事業を活用して、研修会、セミナー等を企画し、当センターとの共催として実施しています。これは、本県には、原子力発電所が立地していることから、周辺住民の放射線の健康影響に関する不安を軽減するため、医療職、自治体職員、関係機関、関係者に対し、原子力災害時のリスクコミュニケーションの推進を図るために事業を促進しています。

●桜島火山災害における避難所運営ゲームの啓発活動

平成28年度プロジェクト「大規模火山噴火にレジリエントな地域社会の実現に向けた防災減災の取組み」の「WG II 生命と暮らしへの影響」の活動から、有志と共に「桜島が大正噴火規模の噴火を起こすことになれば、人々の生命や暮らしには何が起こるのか」の問いに取り組みました。そして、地域社会で暮らす住民が桜島火山版避難所運営ゲームを体験することで、災害における自助・共助の必要性を理解し、自助力を獲得するための行動を起こすことにつながるとし、教材を開発しました。そして、防災・減災の対策の強化のための活動を継続しています。

●原子力災害医療ネットワークの整備、拡大

鹿児島県原子力災害医療ネットワーク検討委員として、有事の際に、効率的かつ適確な医療活動を行うための原子力災害医療体制について、情報提供したり、情報交換したり、地域の現状や課題の把握、さらにマニュアルの改正等の検討に参加して、関連団体の連携強化の支援に努めています。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
セミナー	鹿児島県内の保健師	オンライン	令和3年度の環境省の「原子力災害影響調査等事業（放射線による健康不安の軽減等に資する人材育成事業及び住民参加型プログラム等の実施並びに放射線による健康不安リスクコミュニケーションに係る拠点の設置等）」として、当センターとの共催で鹿児島県において、保健医療福祉関係者を対象に、「保健師の方を対象とした放射線に関する研修会」を実施した。
事業・イベント等	市内在住の高校生	始良市消防局	始良市消防局において実施される「こども消防士育成プロジェクト」におけるゲームのファシリテーター研修会を地元の高校生に実施し、メディアの取材を受けた。
啓発活動	総合防災訓練参加者	清水中学校	令和3年度第52回桜島火山爆発総合防災訓練時に参加し、広報活動を行った。訓練の内容は、見学、体験型訓練もあり、清水中学校生徒が参加した。市長に事業の内容を説明した。また、ブースを見学してくれた中学生に対し、桜島火山版HUG避難所運営ゲームパイロット版の説明と漫画「桜島とともに生きる」を配布することができた。
自治体説明会	鹿児島市民	公民館等	原子力防災訓練に役立つための講話を行った。
自治体委員会	鹿児島県	県内施設	原子力安全・避難計画等防災に関する検討を行った。

キーワード

原子力災害、桜島火山災害、避難所運営ゲーム、リスクコミュニケーション、放射線看護学

まつだ ふみよ
松田 史代 (医歯学域医学系・助教)

専門分野 理学療法学(小児・高齢者)、パラスポーツ(障がい者スポーツ)、介護予防
所属学会 日本理学療法士協会(専門理学療法士(神経系))、日本パラスポーツ協会
(上級障がい者スポーツ指導員)、日本神経科学学会、サルコペニアフレイル
学会
外部委員 鹿児島県理学療法士協会(スポーツ事業部部長)
鹿児島県パラスポーツ指導者協議会



貢献可能な活動

●障がいのある方(特に身体障がい)への接し方・対応・介助・支援(避難所での廃用症候群予防、身体活動支援含む)

理学療法士は、身体に障がいのある方や障がいの発生が予測される人に対して、基本動作能力の回復や維持、および障害の悪化の予防を目的に、運動療法などで、自立した日常生活が送れるよう支援する医学的リハビリテーションの専門職です。医療機関や介護保険分野での理学療法士としての経験や、公民館での住民の方の健康指導などの経験の専門性を活かした活動をできれば、と思っております。

●障がいを呈した方や要支援者の避難所等への移動方法について(介助や支援方法含む)

理学療法士の専門性を生かし、地域で生活される障がいを呈した方(主に車いすや杖使用される方)の移動方法への介助の方法や支援のあり方などサポートすることができます。全国障がい者スポーツ大会の鹿児島県選手団役員として開催県までの移動(飛行機や新幹線、バスなど)や大会期間中の支援・サポートを行っています。それぞれの障がいに応じた介助・支援をより具体的にサポートできればと思っております。

●避難所の環境整備(バリア問題、福祉用具など含む)

住環境整備は、障がいの特性により対応が異なります。避難所という限られた空間で、どのような配慮が必要なのか、どのようなところを整備しなければならないのか、などの検討が必要になってくると思います。また、福祉用具の使用や選択についても、専門性を活かしたサポートできればと思っております。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
出前講義	高校生	県内の高校	鹿児島県・熊本県の高校で「理学療法とは」とのテーマに沿って理学療法士の仕事内容について話をする際に、地域での活動の一環で防災の際にも役割があることを話した。
指導・助言等	障害者手帳保有者	鴨池補助グラウンド等	全国障がい者スポーツ大会(栃木大会)へ出場する選手の開催県までの移動手段の確認や介助の必要性・在り方などを助言した。また、実際に帯同しサポートを行った。
指導・助言等	地域在住の高齢者	鹿児島市内公民館	鹿児島市内在住の高齢者を対象に、廃用症候群の予防や住環境整備のチェック項目や注意点などについて話した。
指導・助言等	地域在住の高齢者	十島村各島	保健事業と介護予防等との一体的な実施を踏まえた高齢者の保健事業の業務として十島村の高齢者への身体機能評価や健康教室の実施、集会所のバリア面の相談に対する助言などを行った。

キーワード

リハビリテーション、理学療法、住環境整備、身体障がい、福祉用具

ひのくま りか
日隈 利香 (医歯学域医学系・助教)

専門分野 地域在宅(福祉・看護)

所属学会 日本発達障害学会、日本社会福祉学会、日本看護学会、日本看護研究学会



貢献可能な活動

●災害時要配慮者である障がい児者とその家族を対象とした防災・減災に関する調査

～現在の防災・減災対策の現状と問題点、当事者・家族が望むこと～

●災害時要配慮者(障がい児者とその家族)に対する防災・減災教育プログラム

知的障がい児や発達障がい児者の多くが環境の変化に順応するのが難しく、時にパニック症状を起こす場合があります。最悪の場合、避難所に行くことすら出来ず行き場を失うことになります。これまで大震災を経験した地域において実施された障がい児者とその家族への支援と防災・減災対策についてまとめ、教育プログラムを作成します。

●災害時要配慮者(障がい児者とその家族)と支援職員(教員含む)に対する防災・減災ワークショップ等の開催

これまで大震災を経験した地域において実施された障がい児者とその家族への支援と防災・減災対策を基に作成した教育プログラムを基に、障がい児者と支援職員と共に防災・減災の在り方について考えるワークショップを開催予定です。

●児童発達支援・放課後等デイサービス施設における災害への備えに関する研究発表、講演

～鹿児島市、九州管内、東日本大震災被災3県(岩手県、宮城県、福島県) 其々の調査結果からみえてきたもの～



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
統計データ集掲載発表	一般全て	三冬社、災害と防災・防犯、統計データ集2022 第4章 16	東日本大震災被災3県(岩手県、宮城県、福島県)の児童発達支援・放課後等デイサービス施設における災害への備えに関する研究の調査結果を掲載。
学会・ポスター発表	日本発達障がい学会会員 日本社会福祉学会会員	1.日本発達障がい学会事務局 2.日本社会福祉学会事務局	1.鹿児島市の児童発達支援・放課後等デイサービス施設における災害への取り組みに関する研究 2.九州管内における児童発達支援・放課後等デイサービス施設における災害への取り組みに関する研究 3.東日本大震災被災3県(岩手県、宮城県、福島県)の児童発達支援・放課後等デイサービス施設における災害への取り組みに関する研究について、2020年から毎年、学会発表を実施。
セミナー	鹿児島県・市危機管理防災局、鹿児島市消防局等	鹿児島大学	第30回鹿児島大学防災セミナー『鹿児島市の児童発達支援・放課後等デイサービス施設における災害への取り組みと今後求められるもの』を実施。 第41回鹿児島大学防災セミナー『災害時要配慮者(障がい児とその家族)への支援』を実施。
ワークショップ	大学生	鹿児島大学	地域・在宅ケア論 災害対策と危機管理演習『医療的ケア児やALS患者を抱える家族など社会的弱者の大雨時の避難の在り方について考える』を実施。

キーワード

障がい児者、地域在宅看護学、災害対策、災害時対応教育

かわばた くによ
川端 訓代 (総合科学域総合教育学系・准教授)

専門分野 地質学・地球化学 (断層岩岩石学)
所属学会 日本地質学会・日本地球化学会・日本地理学会
外部委員 鹿児島県環境審議会委員(温泉部会)



貢献可能な活動

●地質・防災巡検

地質巡検とは地質や岩体を実際に見学する野外実習(フィールドワーク)。防災啓発の上で重要となる地質学を学ぶ巡検、防災施設への巡検を行った。特に台湾はさまざまな活動的な地質帯へのアクセスも容易であり、防災の教育施設は日本より充実しているため過去には台湾地質巡見を実施したことがある。

●地震、火山に関する授業

地震、火山に関する一般向けの講義。サイエンスカフェかごしまにおいて「ラドンで覗く地下の変化」と題して地震予測についての歴史や、断層岩とはなにか?など研究内容を講演。

●地殻流体観測

桜島は、常時観測火山として、リアルタイム映像観測、地震計、傾斜計、GNSS観測など様々な測定が実施されている。しかし、地下の直接的な物質の情報を得ることができる地下水や温泉水の観測は行われていない。このため桜島や始良カルデラ周辺の地下水、温泉水を定期観測し、地殻変動との関わりについての研究を行っている。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
サイエンスカフェかごしま	サイエンスカフェ参加者	鹿児島大学	「ラドンで覗く地下の変化」としてラドン観測を中心に、地殻変動予測の歴史や、地震研究の歴史を講演した。
招待講演	Japan Geoscience Union Meeting 2023参加者	幕張メッセ	始良カルデラ周縁に湧出する温泉付随ガス測定について発表
新聞記事	南日本新聞読者	南日本新聞	南日本新聞オセモコ面「サイエンスカフェ・ノート」に「ラドン濃度測り地震の前兆さぐる」記事寄稿
国際共同研究	台湾国立中央大学/Academia Sinica	鹿児島大学	「地下水・温泉水中ガス濃度変動と地殻変動の関係解明に向けて」と題して台湾国立中央大学・台湾中央研究院・台湾成功大学の地震学分野の研究者との共同研究を行っている
研究		鹿児島県	産業技術総合研究所の研究者と共同で2016年以降、始良カルデラの温泉水について定期観測を行っている。

キーワード

地震、断層、地殻流体、温泉、ラドンガス

ふくみつ ひろたか
福満 博隆（共通教育センター・准教授）

専門分野 野外教育、レクリエーション、体育・健康教育
所属学会 日本野外教育学会、日本レジャー・レクリエーション学会、
日本体育・スポーツ・健康学会
外部委員 鹿児島県キャンプ協会会長、鹿児島県レクリエーション協会常任理事、
鹿児島市立少年自然の家運営協議会委員、鹿児島県立霧島自然ふれあいセンター運営協議会委員



貢献可能な活動

●防災意識の変容につながる自然体験活動（キャンプ）

自然体験活動（キャンプ）の体験を通して、被災後の避難生活を工夫して少しでも快適に、また健康的に過ごすための知識や技術を学ぶ活動。

●避難生活者の健康づくり支援のあり方を考えるための講演

避難生活者への運動及びレクリエーション活動による健康づくり支援のあり方について講義と避難生活者の健康調査を行った結果から今後の支援のあり方を解説する。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
健康づくり支援と健康調査	口永良部島新岳噴火による避難生活者	屋久島	避難生活をしている島民への運動及びレクリエーション活動による健康づくり支援と健康調査を行なった。
招待講演等	フェスに参加した市民	霧島ヶ丘公園多目的広場	令和4年鹿屋市防災フェスにおいて災害時に役立つキャンプの講話を行なった。
講義	鹿児島県のキャンプ指導者	鹿児島県立青少年研修センター	自然体験活動の体験が、被災後の避難生活を工夫して少しでも快適に、また健康的に過ごすための知識や技術を身につける場になることを解説した。

キーワード

キャンプ、防災意識、レクリエーション活動、健康づくり支援

くろみつ たかみね
黒光 貴峰 (法文教育学域教育学系・准教授)

専門分野 住居学、家政学、家庭科教育学
所属学会 日本家政学会、日本家庭科教育学会、日本建築学会、日本民俗建築学会、
人間－生活環境系学会、日本安全教育学会、日本自然災害学会



貢献可能な活動

●防災・減災に関する実態調査

学校現場や地域住民に防災・減災に関する実態調査を行っています。

得られた結果(実態や課題)をもとに、下記のような研究活動を行っています。

●学校教育における防災教育の充実に向けて

学校教育における防災教育の充実に向けて、授業や教材の開発を行っています。

例) 鹿児島市防災ノート(鹿児島市HP参照)

水防災河川学習プログラム

(国土交通省九州地方整備局川内川河川事務所HP参照)

●家庭や地域における防災力の向上に向けて

家庭や地域における防災力の向上に向けて、講話やワークショップ等を行っています。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
出前授業	長崎県立大村高校	オンライン	高校生を対象に、専門である住居学・教育学の視点から防災・減災にかかわる授業を行った。
ワークショップ	中学生と教員	鹿児島市立長田中学校	鹿児島地方気象台と連携して、「地震・津波の避難行動を考える」ワークショップを実施した。具体的には、地震が発生し、津波警報が発表された場合を想定して、避難行動について話し合う活動であり、避難行動には様々な選択肢があることや、それぞれの状況に応じた柔軟な判断が必要であることの確認を専門家とともにを行った。
ワークショップ	小学生と保護者	鹿児島大学教育学部	災害時の「食」に備えるワークショップを行った。具体的には、災害時に食器が用意できない状況を想定し、牛乳パックと新聞紙を使って、スプーンと器を作成した。また、被災時には水やガスの利用が制限される可能性を考慮し、洗い物を減らしながら効率よく調理できる方法を体験する活動を行った。
ワークショップ	小学生と保護者	鹿児島市立田上小学校	防災への備えを見直し、自分の命を守るために必要な行動を考える防災教室を行った。具体的には、子供たちが、①日常生活の中で持ち歩ける「防災ポーチ」と②災害時に必要な情報を簡単に確認し安全に行動できるようサポートするためのカード「まもりんカード」の作成を行った。

キーワード

防災教育、教材開発、意識調査

きむら ゆきのぶ
木村 至伸 (理工学域工学系・准教授)

専門分野 構造工学、耐震工学
所属学会 土木学会、地盤工学会、九州橋梁・構造工学研究会
外部委員 国土交通省九州地方整備局総合評価技術委員会、鹿児島市事業評価監視委員会、鹿児島市廃棄物処理施設の設置に関する専門家会議、建設事業イメージアップ連絡協議会



貢献可能な活動

●桜島大噴火に伴う複合災害が建築・社会インフラに及ぼす影響評価

桜島の大正大噴火においては噴火8時間後にM7.1の地震が発生しており、鹿児島市街地側にも大きな被害をもたらしました。そのため、降灰荷重と地震による影響を把握することは火山防災における重要な課題です。ここでは、桜島の大規模噴火時に想定される降灰荷重と地震による複合災害が建築・社会インフラに及ぼす影響について数値シミュレーションによる検討を行っています。

●経年劣化を考慮した耐震性能評価

橋梁の維持管理においては予防保全型のメンテナンスサイクルが多く採用されているが、この予防保全の管理水準には耐震性が考慮されていません。そのため、構造物の劣化に伴って、初期の想定を超える損傷を受ける可能性が懸念されます。ここでは、構造物の経年劣化が損傷評価に与える影響を外部環境別に推定し、耐震性能の観点から修繕時期の予測を行うことで、耐震性を考慮した予防保全型の維持管理シナリオを検討しています。

●累積的損傷を受ける構造物の耐震性能評価

巨大地震が発生した場合には、その震源周辺で地震活動が発見になり、最初の大地震と同等もしくはそれ以上の規模の地震が発生する可能性があります。これらの地震活動は地震被害の拡大やその後の復旧作業に大きな影響を及ぼす可能性があります。ここでは、一連の地震活動を受けた構造物に対する累積的な損傷評価について検討を行っています。

●常時微動観測を用いた地盤震動特性の把握

地震動の震動特性は、震源特性、伝播経路特性、対象地点における地盤の震動特性に依存することが知られており、地盤の震動特性を明らかにすることは耐震設計や地震の被害予測を行う上で極めて重要となります。ここでは、任意地点の常時微動観測を実施し、この観測波形から常備微動H/Vスペクトル比を算出することで地盤の震動特性を把握する検討を行っています。



常時微動観測システム

活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
委員会等	行政担当者	鹿児島市役所	鹿児島市廃棄物処理施設の設置に関する専門家会議において、設置施設への廃棄物搬入などに伴って生じると考えられる周辺地域の環境保全（騒音・振動対策）について、技術的アドバイスをを行った。
委員会等	行政担当者	鹿児島市役所	鹿児島市事業評価監視委員会において、鹿児島市が事業主体となって実施している国庫補助事業等について、公共事業の効率性およびその実施過程の透明性を評価するための助言を行った。

キーワード

社会基盤、地震災害、耐震性能評価、地盤の震動特性、常時微動観測

ひら みずき
平 瑞樹 (農水産獣医学域農学系・助教)

専門分野 農地保全学、地盤工学、景観デザイン学、農村計画学、空間情報科学
所属学会 農業農村工学会、土木学会、地盤工学会、農村計画学会、GIS学会、RS学会
外部委員 農林水産省九州農政局法面復旧・設計アドバイザー、国土交通省国土地理院九州地方測量部地理空間情報活用推進に関する九州地区産学官連携協議会幹事、国土交通大臣認可(国官技236号)全国トース技術研究組合理事、鹿児島県景観アドバイザー、鹿児島県日本型直接支払等に係る第三者委員会委員、農村計画学会評議員



貢献可能な活動

●斜面災害の復旧対策

九州内における斜面災害地域での調査・研究を行っています。九州北部豪雨災害、熊本地震、令和2年7月豪雨災害においては、学会で組織する調査研究のメンバー、地域防災教育研究センターの事業として斜面災害の復旧対策への提言や市民への防災・減災意識の啓発に取り組みました。

●農業農村地域における防災・減災対策

中山間地域における防災・減災対策として、石積み擁壁の保全対策や土石流災害で崩壊した棚田・棚畑の現況復旧のための助言等を行っています。さらに、ファームポンドやため池、水路等の農業用施設において老朽化の著しい施設、道路等の機能診断により、農業生産環境の維持と下流域に影響を及ぼさない防災・減災対策のための指導・助言に取り組んでいます。

●災害時のUAV(ドローン)の利活用

災害発生時の現地調査や現況復旧時の施工現場の空撮による把握において、小型ドローンの利用は有効です。特に火山噴火後や豪雨時の土石流危険地域等の立ち入りが規制される地域においても威力を発揮するため、災害情報の共有のための手段として利活用が期待されます。



ドローンによる崩壊斜面の空撮

活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
指導・助言等	九州農政局・地域振興技術者	人吉市・芦北町など	令和2年7月豪雨では、芦北・球磨地域が豪雨による被害が甚大であった。川辺川農業水利事業所管内においては、河川の氾濫による農地の埋没、農道や水路が被害を受けた。また圃場整備団地の斜面の崩壊地の視察を行い、現場から持ち帰った土試料の物理試験などを実施した。そうして、復旧工事のための基礎資料として提供して、法面設計についての指導・助言を行った。
委員会等	北九州市市民・土木学会会員等	北九州市	北九州市内に分布する地質や地形(斜面傾斜角)の違いなどによる雨の降り方と崩壊の関係に関する予測精度を高める方法、および住民の方々にこの考えを分かりやすく説明する方法などを研究し、全国の斜面災害から被害を無くすことを目的としている。
ワークショップ委員会等	自治体・測量設計業協会等	九州管内	九州管内での地理空間情報の活用推進に向けた取組として、産業界、教育機関、行政機関と連携して、特に防災・減災のための空間情報の活用推進に関しての情報共有や意見交換を行った。
指導・助言等	九州農政局・環境コンサルタント	沖永良部島	沖永良部では農業用水の確保のために地下ダム建設による地下水が利用されている。流域内の水管理に加えた施肥計画、地下水の利用に影響を及ぼさないよう対策を講じる必要があり、渇水時の農作物被害も含めた灌漑用水利用について専門的な立場から助言している。
授業やイベントでの講話	児童・生徒・地域住民	・宇検村 ・湧水町	・斜面災害が多発している奄美群島で防災学習 ・流域治水の考え方や田んぼダムの講話、防災・減災面での棚田の役割を解説

キーワード

農地災害、農業用施設災害、防災GIS、UAV(ドローン)、グリーンインフラ

やなぎだ のぶひこ

柳田 信彦 (医歯学域医学系・助教)

専門分野 精神科作業療法学・精神科リハビリテーション

所属学会 日本精神神経学会、日本心身医学会、九州精神神経学会、鹿児島精神神経学会

外部委員 鹿児島市介護認定審査会審査委員

鹿児島市障害者自立支援協議会 精神保健福祉部会委員

鹿児島県作業療法士協会理事(学術担当)



貢献可能な活動

●大規模地震やそれにもなう大津波により原子力発電所が被災した際、入院患者避難時の当事者視点からのケアやフォローアップについて

災害により原子力発電所が被災した際、近隣の病院に入院中の患者の避難には特別な配慮が必要です。

その配慮について当事者視点からのケアやフォローアップを基に、医療に従事する方々に対して研修を行い、入院患者の迅速な避難と避難所でのスムーズな生活のために指導・助言ができる人材を育成することを目指しています。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
指導・助言等	精神障害者	精神科病院	精神科病院入院中の患者に対する退院へのアドバイスを行う中で災害時の対処についてディスカッションを行う機会を設けた。
指導・助言等	認知症高齢者	高齢者施設	認知症を有する高齢者に対して回想法を行う中で、経験した災害とその対処方法について情報の共有を行った。

キーワード

精神科リハビリテーション、精神障害作業療法、退院支援、再発予防、医療従事者人材育成

いむら りゅうすけ
井村 隆介（総合教育機構共通教育センター・准教授）

専門分野 地質学、火山学、地震学、自然史、自然災害科学
所属学会 日本地質学会、日本火山学会、活断層学会、日本第四紀学会、日本自然災害学会、日本災害情報学会
外部委員 国土交通省九州地方整備局緊急災害対策派遣ドクター、鹿児島県土砂災害対策アドバイザー、大崎町防災アドバイザー、奄美市政政策アドバイザーほか



貢献可能な活動

●火山噴火・地震・活断層・津波の履歴調査とその災害に関する研究

地形学や地質学の手法を用いて、火山噴火史、地震・津波の発生履歴やその災害に関する調査・研究を行っています。地域の災害リスクを科学的に検討し、それを防災に活かすための研究をしています。

●大規模火山噴火と気候変動・環境変化

南九州の現在の環境を理解するためには、気候変動のような世界規模で起こった環境変動史のほかに、大規模な火山活動による環境変化の歴史を知っておく必要があります。様々な時間スケールでみた環境変遷史の研究をしています。

●自然災害科学の啓発・教育

防災情報は、それが必要な人に、必要なときに、必要なかたちで伝えられないと意味がありません。そのためには、リアルタイムでの状況把握と情報提供が重要です。災害時のメディアへの情報提供はもちろん、普段からの啓発・教育活動に努めています。住民や子どもたちへの講演は年間50回以上になります。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
セミナー	始良市社会福祉協議会	始良公民館	「災害時の自助・共助・公助－みんなが考える防災－」
	雲仙市社会福祉協議会	吾妻町ふるさと会館	「みんなが考える地域防災」
招待講演等	一般	サンロイヤルホテル	鹿児島県農協連OB会「災害時の自助・共助・公助」
	一般	TKPガーデンシティ	コープ共済LP活動講演「災害時の自助・共助・公助」
指導・助言等	教員・児童・生徒	育英小学校	「災害に備える」
		小瀬田小学校	「地震・津波を想定した避難」
委員会等	教育関係者	風テラスあくね	「鹿児島県の防災教育の在り方」
取材対応	各種メディア	スタジオほか	「2022年7月桜島噴火警戒レベル5」「2024年8月日向灘地震」「2024年8月台風10号」など

キーワード

火山災害、地震災害、津波災害、土砂災害、自然史、自然災害科学、防災科学教育

なかむら ひろひこ

中村 啓彦 (農水産獣医学域水産学系・教授)

専門分野 海洋物理学、海洋気候学、水産海洋学

所属学会 日本海洋学会、米国地球物理学連合、水産海洋学会

外部委員 鹿児島県海域モニタリング技術委員会、鹿児島県海岸漂着物対策協議会



貢献可能な活動

●南九州の気候変動特性（特に梅雨期の降水量変動）の解説

九州周辺の梅雨期の集中豪雨に対して、東シナ海上で海洋から大気へ供給される熱と水蒸気が重要な役割を果たしていることが、近年の研究からわかってきました。水産学部附属練習船「かごしま丸」を利用して、気象庁/気象研究所との共同研究の一環で梅雨期の東シナ海上の大気観測を実施しています。このような研究活動を通して得た科学的知見を基に、南九州における気候変動特性を解説します。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
取材対応	小学生	鹿児島大学 水産学部	2023年8月に鹿児島放送が企画した「鹿児島お仕事発見隊 報道記者として気候変動について取材しよう！」の一環で、小学生3人から地球温暖化と梅雨期の集中豪雨に関する取材を受けた。取材内容は、後日、【Jチャン+SDGsウィーク テーマ「気候変動」特集】で放送された。
講演	小学生	MBC放送 7Fホール	日本財団海と日本プロジェクト～われはうみの子探検隊～の一環で、「地球温暖化と海」という題目で、地球温暖化の仕組みや、地球温暖化で日本周辺の海洋がどのような影響を受けるかを説明した。

キーワード

気候変動、気象災害、海洋環境、地球温暖化、梅雨

各教員の防災活動

かきぬま たろう
柿沼 太郎 (理工学域工学系・准教授)

専門分野 海岸工学、津波工学、海洋物理学
所属学会 土木学会、日本海洋学会、水文・水資源学会
外部委員 土木学会海岸工学委員会委員、土木学会海岸工学委員会波動モデル研究会主査、志布志港長期構想検討委員会委員、鹿児島県公共事業等骨材調達協議会委員、鹿児島県海岸保全基本計画検討委員会委員、佐賀県地震等アセスメント調査検討委員会委員、大分県有識者会議委員、琉球諸島沿岸海岸保全基本計画の改定に関する技術検討委員会委員、西部海難防止協会専門委員会委員、鹿児島市防災専門アドバイザー委員



貢献可能な活動

●津波・高潮のメカニズムや沿岸防災に関する講演

風波と津波の違いや、津波・高潮の発生メカニズムを動画等を用いて解説します。ところで、津波は、様々な原因で発生します。津波を引き起こす原因として、例えば、太平洋の海底地震や、湾内の地すべり及び海底噴火等が挙げられます。更に、遠地の火山が噴火して生じた気圧の波によっても津波が生成されますが、これは、九州西岸等で見られる「あびき」の発生メカニズムと類似しています。こうした種々の津波に関して、数値シミュレーション、水理実験や現地調査の結果に基づき説明します。

●津波・高潮の浸水・被害調査、沿岸域における避難訓練等の視察・助言

スリランカにおける 2004 年インド洋大津波の復興状況調査、バングラデシュでの 2007 年サイクロン・シドルによる高潮の浸水・被害調査、また、岩手県及び宮城県における 2011 年東北津波の浸水・被害調査（右下の写真）を行ないました。そして、こうした経験を活かし、指宿市における小学校避難訓練及び校長研修会や、南種子町平山地区及び与論町で実施された津波避難訓練等に参加して、講演及び助言を行ないました。

●沿岸域や海域の物理現象の教育・報道対応

錦江湾高校及び甲南高校の SSH や、県外の高校の理科研究に参加しています。また、子供新聞の夏休み自由研究や、子供科学実験を通して、海洋波動実験施設を用いた水の波の解説等を行ないました。更に、津波・高潮に限らず、沿岸の防災や海域の物理現象に関して、報道対応を行なっています。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
講演・助言	市民、日本技術士会、企業等	奄美市市民交流センター、稲盛会館、鹿児島市町村自治会館、JX 喜入石油基地、南種子町平山地区、与論町、Woodlands Hotel (インド) 等	避難行動に関するシンポジウム、九州本部青年技術士交流委員会公開講演会、日本技術士会鹿児島県支部 CPD 講演会、防災・日本再生シンポジウム、鹿大防災セミナー、教員免許状更新講習、National Safety Day、避難訓練、図上訓練、地震津波避難ワークショップ等で、津波・高潮や、沿岸防災に関する講演・助言を行なった。
授業・研究	小学生 中学生 高校生	高校、鹿児島大学	霧島高校で、防災研究授業に参加した。また、錦江湾高校及び甲南高校で、SSH の研究指導及び講演を行なった。そして、鹿児島大学で開催された SSH 全国大会で講演した。更に、志学館高等部で、出前授業を行なった。
メディア対応	市民	各種媒体	各メディアで、取材・投稿依頼に対応した（50 音順）。 県内: 南海日日新聞、毎日新聞社鹿児島支局、南日本新聞； NHK 鹿児島放送局、MBC、KKB、KTS、KYT 県外: 岩手めんこいテレビ、東日本放送 全国: 朝日新聞、共同通信社、日本経済新聞、読売新聞； NHK、NHK BS

キーワード

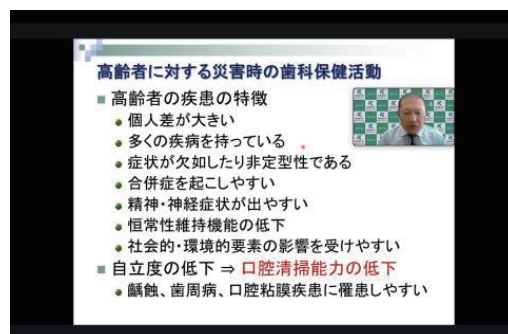
津波、高潮、水の波、流体と構造物の相互干渉、気象に起因する波動・流動、透水性海浜の浸透流、島嶼の統計的性質

「鹿大防災セミナー」とは？

防災に関する教育・研究や行政等の取組について、本センターに関わる教職員および関係機関の情報交換や交流を目的に平成25年度から「鹿大防災セミナー」を実施しています。これまで計46回を開催してきました。セミナーには、どなたでも参加できます。



第42回鹿大防災セミナーの様子
(対面、オンライン同時開催)



オンラインでの実施を継続しています

令和6年度の鹿大防災セミナーは、5回シリーズで開催しました！

令和6年度は「大災害に備える」というテーマで、5回シリーズのセミナーを企画しました。昨今の気象や大地震の頻発などによる甚大な被害を踏まえ、被災地での学びや最新の防災気象情報、大学における防災に関する研究を紹介し、地域防災力の向上を図ることを目的としています。

「大災害に備える」「災害に備える地域づくり」「災害現場で最新技術を活用する」「避難所生活の支援」「地震や火山噴火の予兆を把握する」の5つのテーマを設定し、合計1065名の参加がありました。

鹿大防災 セミナー

無料参加費
CPDプログラム認定講座

第1回 対面+オンライン同時開催

第42回 大災害に備える

7/31 水 16:00~17:30

会場：鹿児島大学 教育学部
管理棟・理系研究棟 2階 大会議室
会場定員：50名

※会場へは公共交通機関をご利用ください。

講演：「地域防災教育研究センターの取組」
鹿児島大学地域防災教育研究センター長
理工学工学系 教授 酒匂 一成

「能登半島地震災害から見た課題」
国土交通省九州地方整備局防災室
防災室長 川端 良一

「昨今の気象と防災気象情報の充実」
鹿児島地方気象台
気象防災情報調整官 土屋 春彦

お申込み・お問合せ
鹿児島大学地域防災教育研究センター事務局
TEL.099-285-7234
<http://bousai.kagoshima-u.ac.jp>

※第43回以降はオンラインのみ開催

第43回 10/2 水 16:00~17:00
災害に備える地域づくり
講演：「2023年6月鹿児島大学の土砂災害調査および
久慈地区土石流による農地被害と今後の対策（仮）」
鹿児島大学農水産学工学系
助教 千 瑞樹
「鹿児島大規模噴火に伴う群衆による
避難経路過程の実験的検討」
鹿児島大学理工学工学系
助教 長山 剛夫

第44回 11/7 木 16:00~17:00
災害現場で最新技術を活用する
講演：「災害時の情報通信及び関連機器の整備」
鹿児島大学情報基盤統括センター
教授 丹原 正人
「超高速・省エネ型FGHP(R)ライトによる
防災・減災への貢献」
鹿児島大学理工学工学系
准教授 水田 敬

第45回 1/10 金 16:00~17:00
避難所生活の支援
講演：「避難所における口腔ケア（仮）」
鹿児島大学歯学部歯学系
教授 田村 裕一
「避難生活者の健康づくり支援について」
鹿児島大学総合教育機構共通教育センター
准教授 川端 明代

第46回 1/27 月 16:00~17:00
地震や火山噴火の予兆を把握する
講演：「ラドンで聞く地下の変化～地震変動は予測できるか?」
鹿児島大学総合教育機構共通教育センター
准教授 川端 明代
「鹿児島から噴出する火山灰を構成する斜長石の
構造状態に関する研究」
鹿児島大学法文学部教育学系
教授 松井 智彰

※タイトルが変更になる場合があります。HPを随時ご確認下さい。

令和6年度鹿大防災セミナーのチラシ

これまで実施した鹿大防災セミナー

回数	講演テーマ	講演者	開催日
第1回	気象レーダを用いた極端現象の監視と予測ー現状と今後の研究計画ー	眞木 雅之	2013年6月5日
	被災者と仮設住宅ー東日本大震災での現状から南九州を考えるー	岩船 昌起	
第2回	地域の歴史文化をどのように形成し、豊かにしていくのかー歴史資料の防災ネットワーク構築にむけた取り組みー	佐藤 宏之	2013年10月2日
	鹿児島県における地震・津波リスクー高頻度から低頻度まで、大規模から小規模までー	小林 励司	
第3回	川内川における水害対策の取り組み	宗 琢万	2014年1月16日
	降雨時の斜面崩壊予測システムの構想と研究の進捗状況	酒匂 一成	
第4回	2001年～2012年の桜島火山ガス高濃度事象	坂本 昌弥	2014年5月30日
	地形と環境、防災ー鹿児島の低地を例として	森脇 広	
第5回	福島原子力事故の経験をどう生かすか？	秋葉 澄伯	2014年7月28日
	鹿児島県の緊急被ばく医療体制について	垣花 泰之	
第6回	気象台の発表する防災気象情報について	山下 一実	2014年10月27日
	指定公共機関としての防災・減災への役割	古川 憲洋	
第7回	火災と現場に潜む危険性	斎藤 栄次	2015年1月23日
	鹿児島県の防災対策ー自然災害への対策を中心にー	幸 進也	
第8回	災害時の心理と基本的対処法	関山 徹	2015年4月23日
	学校教育における防災教育の充実に向けて	黒光 貴峰	
第9回	平成18年7月豪雨における川内川流域住民の避難行動について	安達 貴浩	2015年10月2日
	土砂災害対策について	戸田 洋一	
第10回	噴煙の映像観測・衛星画像解析と火山防災	木下 紀正	2015年12月10日
	三島村・鬼界カルデラジオパークにおける防災への試み	大岩根 尚	
第11回	気象庁の津波警報について	緒方 誠	2016年2月26日
	津波観測波形を用いた津波波源の逆解析とリアルタイム津波予測	浅野 敏之	
第12回	放射線災害部門における医学部保健学科のこれまでの取り組み	松成 裕子	2016年8月3日
	原子力防災に関する薩摩川内市の取り組み	遠矢 一星	
第13回	歴史的文化財の保全のためのマッピング化の試みー文化財地理情報データベースの利用ー	深瀬 浩三	2016年10月20日
	津波の数値シミュレーション	柿沼 太郎	
第14回	川内川流域における地域防災力向上のための研究	安達 貴浩	2016年12月22日
	平成18年7月豪雨時の降雨の時空間分布が川内川の水位上昇速度に与えた影響について	齋田 倫範	
第15回	火山噴火研究のための三次元気象レーダデータ解析ツール(ANT3D)について	眞木 雅之	2017年3月21日
	火山災害と健康支援ー地域の文化に即して	丸谷 美紀	
第16回	累積的損傷を受ける構造物の対震性能評価	木村 至伸	2017年6月23日
	地震による地盤災害ー液状化と斜面崩壊ー	酒匂 一成	
第17回	原子力災害による健康影響ー福島県の現状についてー	土橋 仁美	2017年8月8日
	鹿児島県における保健師の放射線に関する実態調査から	松川 京子	
	噴煙柱崩壊で火砕流が発生する物理条件に関する理論・観測研究	石峯 康浩	
第18回	K T S 防災プロジェクト イザ！カエルキャラバン	渡司 陵太	2017年11月6日
	リスクコミュニケーションー桜島大噴火を例に	桐野 秀吾	
第19回	擁壁崩壊にともなう地盤内の変形メカニズムの評価ー擁壁の転倒や孕み出しによる地盤変形の可視化ー	平 瑞樹	2018年2月22日

これまで実施した鹿大防災セミナー

回数	講演テーマ	講演者	開催日
第19回	鹿児島県で発生した種々の地すべり事例	三田 和朗	2018年2月22日
第20回	地震火山地域防災センターについて	地頭藺 隆	2018年5月9日
	南九州、北部南西諸島域での地震火山観測研究	中尾 茂	
	海底地震観測で得られた巨大地震前後の地震活動変化－2011年東北地方太平洋沖地震－	仲谷 幸浩	
第21回	日本における原子力災害医療体制に関する実態調査	吉永 健嗣	2018年9月11日
	鹿児島県の原子力災害拠点病院としての当院の課題と今後の取り組みについて	土橋 仁美	
第22回	大規模災害時の歯科的身元確認業務について	田松 裕一	2019年3月14日
	災害時の情報伝達手段の整備	升屋 正人	
	桜島から噴出する火山灰に含まれる斜長石の構造状態について	松井 智彰	
	熊本地震から見たこれからの土木の在り方	小池賢太郎	
第23回	レジリエントな地域社会の実現に向けた防災減災の取り組み	中谷 剛	2019年6月18日
	最近の地震に関するスライド教材の開発と2019年5月10日日向灘の地震(M6.3)の例	小林 励司	
第24回	離島における介護職者の防災に対する認識について－奄美市と五島市の比較－	今村 圭子	2019年9月12日
	防災と自然体験活動のすすめ	福満 博隆	
第25回	島嶼域サトウキビ圃場の消費水量	肥山 浩樹	2019年11月27日
	3.11以降の災害支援・災害調査活動の振り返り－東日本大震災・熊本地震・口永良部島噴火・東シナ海油類漂着・硫黄山白濁水流出－	西 隆一郎	
第26回	地震体験から得られること・伝えたいこと	審良 善和	2020年1月22日
	船舶レーダによる噴石の検出	眞木 雅之	
第27回	原位置試験の材料パラメータを用いた有限要素解析	平 瑞樹	2020年11月4日
	データ同化を用いた土中水分量の計測データに基づく不飽和浸透特性の推定	伊藤 真一	
第28回	桜島大規模噴火を想定した降灰シミュレーション	中谷 剛	2021年2月10日
	桜島大規模噴火に伴う軽石による港湾埋没過程の検討	長山 昭夫	
第29回	浅瀬を有する島嶼に入射する津波の数値解析	柿沼 太郎	2021年3月8日
	AI（人工知能）技術を利用した桜島大正噴火（1914年）写真のカラー化とそれを活用した啓発活動	井村 隆介	
第30回	鹿児島市の児童発達支援・放課後等デイサービス施設における災害への取り組みの現状と今後求められるもの	日隈 利香	2021年6月8日
	桜島から噴出する火山灰を構成する斜長石の構造状態に関する研究－火山防災上の意義と今後の課題－	松井 智彰	
第31回	桜島火山版避難所運営ゲーム（HUG）開発について	松成 裕子	2021年8月31日
	GISを活用した桜島噴火による降灰を対象とした防災教材の作成	中谷 剛	
第32回	自然災害を想定した文化財保全オンラインワークショップの試み	佐藤 宏之	2021年11月29日
	近年の豪雨に伴ういくつかの事象と関連する研究の取り組みについて	齋田 倫範	
第33回	沖永良部島における侵食にともなう農地災害防止に関する基礎的研究	肥山 浩樹	2022年3月15日
	機械学習による斜面崩壊予測に関する研究	伊藤 真一	
第34回	地域防災教育研究センターの新たな取り組みについて	地頭藺 隆	2022年10月13日
	桜島の大規模火山噴火前後における事象の発生過程に関する調査	酒匂 一成	
	大規模火山噴火後に起こりうる複合災害の事例収集・分析とそのメカニズム検討	齋田 倫範	
	大規模火山噴火およびその後の複合災害が与える市民生活、地域産業、インフラ等への影響評価	寺本 行芳	

これまで実施した鹿大防災セミナー

回数	講演テーマ	講演者	開催日
第35回	学校・家庭・地域の防災力の向上に向けた取組	黒光 貴峰	2023年2月20日
	精神科病院に従事する医療関係者を対象とした防災啓発活動の取組	柳田 信彦	
第36回	1914年桜島地震における鹿児島市内の震度分布	小林 励司	2023年3月16日
	保健学科における新たな地域防災と地域連携を推進する事業計画について ～チーム医療実習における要避難支援者への避難行動に係る支援計画～	松成 裕子	
第37回	地域防災教育研究センターの取組、鹿児島の自然と災害	地頭 蘭 隆	2023年10月2日
	気象台の地域防災支援の取り組みと防災気象情報	平山 久貴	
第38回	土砂災害の仕組みと防災対策	寺本 行芳	2023年10月23日
	河川災害の仕組みと防災対策	齋田 倫範	
第39回	学校での防災教育教材の活用	黒光 貴峰	2023年11月20日
	VR地震体験装置の開発と活用	小池賢太郎	
	桜島火山版避難所運営ゲーム（HUG）の実践活動から原子力災害版への開発	松成 裕子	
第40回	火山学を火山防災に活かす	井村 隆介	2023年11月27日
	地震災害の仕組みと防災	小林 励司	
	種々の津波の数値シミュレーション	柿沼 太郎	
第41回	自治体アンケートから見えた課題と取組の方向	松田 史代	2024年1月18日
	災害時要配慮者（障害児者とその家族）への支援	日隈 利香	
	入院患者への避難時のフォローアップについて	柳田 信彦	
第42回	地域防災教育研究センターの取組	酒匂 一成	2024年7月31日
	能登半島地震災害から見えてきた課題	川端 良一	
	昨今の気象と防災気象情報の充実	土屋 春彦	
第43回	2023年6月奄美大島の土砂災害調査および久慈地区土石流による農地被害と今後の対策	平 瑞樹	2024年10月2日
	桜島大規模噴火に伴う軽石群による港湾埋没過程の実験的検討	長山 昭夫	
第44回	災害時の情報通信及び関連機器の整備	升屋 正人	2024年11月7日
	超高輝度・省エネ型FGHP(R)ライトによる防災・減災への貢献	水田 敬	
第45回	大規模災害時の避難所における口腔ケア	田松 裕一	2025年1月10日
	避難生活者の健康づくり支援について	福満 博隆	
第46回	ラドンで覗く地下の変化～地殻変動は予測できるか？～	川端 訓代	2025年1月27日
	桜島から噴出する火山灰を構成する斜長石の構造状態に関する研究（2023年11月～2024年10月）	松井 智彰	

参加者の声



防災・減災の知識が少しでも身について良かったです。



最新情報を知ることができ、とても有意義でした！



この先も地域防災のために勉強していきたいです。

※令和6年度アンケート回答から抜粋

地域防災教育研究センターでは、自治体等学外の組織や個人と連携しながら、毎年シンポジウムを開催し、研究成果の発表や防災教育コンテンツを活用するワークショップ等を通じて、地域防災力向上のための啓発活動などに取り組んでいます。シンポジウムには、どなたでも参加できます。

令和6年度レジリエント社会・地域共創シンポジウム 「火山大噴火と地震に備える～災害を知り、地域防災力を高める～」

2024年12月7日（土）、鹿児島大学稲盛会館キミ & ケサメモリアルホールにて、令和6年度レジリエント社会・地域共創シンポジウムを開催しました。当日は、会場とオンラインのハイブリッド形式で実施され、県内外から一般住民、自治体や関係機関の職員、学生など約300人が参加しました。

会場ロビーには桜島の大正噴火時の写真をAIカラー化した展示や、噴火による降灰をVR体験できるコーナー、鹿児島市の桜島火山防災リーフレット等の資料コーナーが設けられ、多くの来場者が見学しました。

第一部 講演

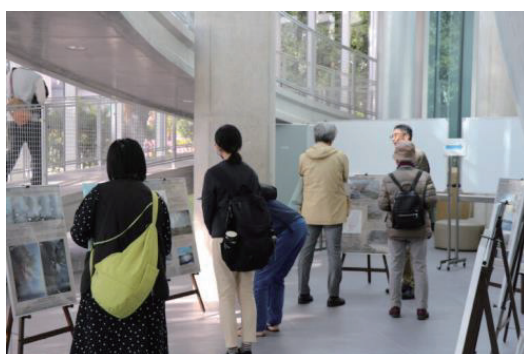
- ①「大規模火山噴火に備えた調査研究等、センターの取組とシンポジウムの趣旨説明」
鹿児島大学地域防災教育研究センター長 酒匂 一成
- ②「県内の火山の現状と備え」
鹿児島大学総合教育機構共通教育センター准教授 井村 隆介
- ③「県内で想定される地震と備え」
鹿児島大学理工学域理学系准教授 小林 励司
- ④「気象庁の地震・火山防災情報」
鹿児島地方気象台地震津波火山防災情報調整官 安藤 忍



講演の様子



第二部 パネルディスカッション
「地域防災力の向上について考える」



展示コーナーの様子

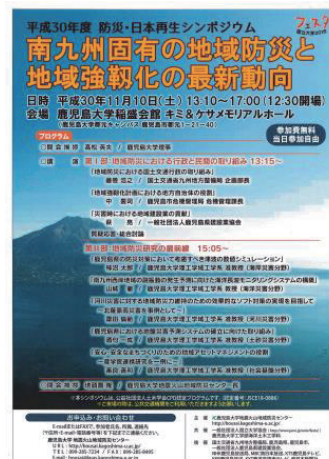


VR体験の様子

これまで実施した主な防災シンポジウム

防災シンポジウム	開催日
防災・日本再生シンポジウム「奄美防災シンポジウム～奄美豪雨災害から学ぶ～」(奄美市名瀬公民館)	2011年10月23日
地域防災教育研究センター1周年企画シンポジウム「地域防災力の向上を考える」	2012年10月6日
防災・日本再生シンポジウム「地震・津波に対する学校と地域の防災を考える」(志布志市文化会館)	2013年11月9日
防災・日本再生シンポジウム「桜島火山と地域防災～大正噴火の経験を活かす～」	2014年10月25日
鹿児島大学シンポジウム「島嶼災害の特徴と防災」(鹿児島大学国際島嶼教育研究センター共同主催)	2015年1月31日
鹿児島大学・奄美市教育委員会連携シンポジウム「奄美での津波避難を考える～最先端の防災科学と学校での防災教育～」(奄美文化センターホール)	2015年2月8日
一般公開シンポジウム「霧島山の火山ハザード～2011年を事例として～」(日本地形学連合共同主催)	2015年10月11日
防災・日本再生シンポジウム「島嶼の自然災害と防災」	2016年11月26日
防災シンポジウム「熊本地震に関する鹿児島大学の活動報告」	2017年4月8日
防災・日本再生シンポジウム「桜島大規模噴火を想定した災害医療体制の構築」	2017年12月2日
防災・日本再生シンポジウム「南九州固有の地域防災と地域強靱化の最新動向」	2018年11月10日
防災・日本再生シンポジウム「地震火山災害の軽減に貢献する鹿児島大学の観測調査研究」	2019年11月9日
防災・日本再生シンポジウム「大規模火山噴火時の災害医療に挑む～新たな取り組みと研究～」	2020年12月12日
防災・日本再生シンポジウム「桜島大規模噴火時の降灰による地域社会への被害想定と減災対策」	2021年12月11日
レジリエント社会・地域共創シンポジウム「鹿児島大学の地域防災研究最前線～地域防災に貢献する大学の役割を考える～」	2022年12月10日
レジリエント社会・地域共創シンポジウム「地域共創による災害に強いまちづくりを考える in 薩摩川内市」	2023年12月10日
レジリエント社会・地域共創シンポジウム「火山大噴火と地震に備える～災害を知り、地域防災力を高める～」	2024年12月7日

近年の防災シンポジウムチラシ



アクセス



産学交流プラザ 2 階



鹿児島大学 郡元キャンパス

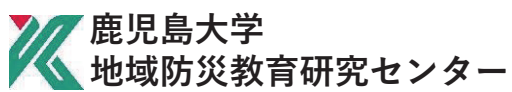
鹿児島大学の地域防災活動

2025年4月

編集 高橋 碧

協力

発行者 鹿児島大学 地域防災教育研究センター



鹿児島大学

地域防災教育研究センター

Research and Education Center for Natural Hazards

〒890-0065

鹿児島県鹿児島市郡元1-21-40

TEL:099-285-7234

FAX:099-285-8495

E-mail : bousai@kuas.kagoshima-u.ac.jp

